# 第45回水の作文コンクール　審査評（優秀賞）

| 賞 | 題　名<br>学校名・学年<br>氏　名 | 審査評 | |
|---|---|---|---|
| 地方審査<br>優秀賞 | 全ては繋がっている<br>志學館中等部　２年<br>谷口　諒 | 小学生の頃から環境問題への意識が高い筆者は，世界の水不足について調べ，自分なりに考えていく。世界を見つめ，自分の生活と比較しながら自分の身の回りでできることを探し，「水」と「食」の繋がりに気付く作文である。 | ふとした疑問を調査したことで，水の大切さについて考え，「食生活を見直す」ことを意識した筆者。誰もが「確かにそうだ」と考えることを，世界全体での繋がりを通して意識する必要があるという着想に，作品の奥深さが感じられる。 |
| 地方審査<br>優秀賞 | 水の大切さ<br>龍郷町立赤徳中学校　１年<br>別府　優里 | 書き出しにある「私は水が好きだ。」の一文と水が好きな理由が，さまざまな経験と経験をもとに考える筆者の原動力となっている。水資源を守るために，自分や家族でできることを具体的に数多く挙げている作文である。 | 筆者の不安が如実に伝わってくる実体験から，改めて水の大切さを痛感した作品となっている。その思いが「私は水が好きだ」という冒頭の一文にすべて集約されている。中学生らしい視点での表現は読みやすく，大いに好感がもてる。 |
| 地方審査<br>優秀賞 | 次代へ水を守る<br>枕崎市立立神中学校　３年<br>俣江　颯太 | 海が好きな筆者が，次代の水を守ろうと水問題について具体的に考えている作文である。<br>これまでの自分を振り返り，具体的な取組を考えるとともに，読者へ訴えかけているところに筆者の強い思いが感じられる。 | 自身の何気ない行動をきっかけに，普段から少しずつ水を無駄にしていることに気付く筆者。未来に目を向けた筆者が，次世代のために「全ての人々と幸せを共有すべきである」というメッセージ性溢れる一文で表現しているのは共感できる。 |

# 第45回水の作文コンクール　審査評（入選）

| 賞 | 題　名<br>学校名・学年<br>氏　名 | 審査評 | |
|---|---|---|---|
| 地方審査<br>入　選 | 食と水～私たちにできること～<br>志學館中等部　２年<br>髙﨑　莉奈 | 水の大切さを食との視点で捉え，私たちにできることを考えた作文である。水の消費量を数値化することで，現実を見つめたり節水の必要性を実感したりすることができた。確実な実践を期待したい。 | 「驚きの連続」だったという表現は，日頃から何気なく使っている水の調査を改めて行ったことでの，筆者の率直な感想であろう。「限りある水を大切にしたい」という思いは，すべての読者から理解が得られることだろう。 |
| 地方審査<br>入　選 | 水一滴で笑顔<br>志學館中等部　２年<br>木原　大翔 | 筆者の「水一滴で笑顔」という題名には，読者への強いメッセージが込められている。「相手が喜ぶ顔を想像しながら，本当に必要な分だけを使う。」という節水の提案は，大変印象に残る作文である。 | 水について考えながら，SDGsやウクライナ情勢などにも話題を触れ，世界の時事問題にも関心を寄せることは素晴らしい。「水や資源の使い方についての提案」も興味深く，読者に対してのメッセージ性の高い作品となっている。 |
| 地方審査<br>入　選 | 「水の大切さ・恐ろしさ」<br>志學館中等部　２年<br>本坊　昂士 | 水の長所と短所をさまざまな視点で捉え，具体的な取組を考えた作文である。<br>恐ろしいことが起きないように，最後の段落で「みんなで取り組もう。」と呼びかけているところに筆者の強い思いが感じられる。 | 文章構成や表現力が素晴らしく，「世界の人たちがきれいで，安全な水を飲めるように」という筆者の思いが伝わりやすくなっている。日本だけに限らず，世界に目を向けて物事を考える結びの一文が大変力強く，共感が得られる作品である。 |
| 地方審査<br>入　選 | 水を黒潮<br>龍郷町立赤徳中学校　１年<br>佐竹　すみれ | 雨の多い奄美市に住む筆者が，幼い頃の思い出や父との会話から水の大切さを実感する作文である。水に関係のある「雨」「海」「水道水」。それぞれのつながりを大事にしながら生きていこうとする決意が伝わってくる。 | 幼い頃の体験を基に，水に対して「少し使わせていただいているもの」だという考えに到る着眼点が興味深い。黒潮の潮流の中で戯れる筆者の様子は読者も想像しやすく，「自由になったように感じる」という言葉が心に響く。 |
| 地方審査<br>入　選 | 水を備える<br>志學館中等部　２年<br>横山　美優 | 災害に備える視点で水の大切さについて考えた作文である。<br>筆者が述べている日常の取組に，災害時の備えにつながる取組が加わると，より説得力が増すと思われる。 | 会話文を適切に交えたことで，タイトルの「備える」と本文中の「備えることで，水の大切さを学ぶ」ということに一貫性がみられる。筆者の二分割思考とも思える表現は興味深く，他の中学生にも参考にしてほしい。 |